

# 普通期水稻栽培暦 (令和7年12月作成)

南さつま農業協同組合  
南薩地区農林技術協会  
南薩地域米・麦・大豆等生産対策協議会

環境保全型農業に努め、肥料・農薬の適正使用と飛散防止に心がけましょう！

うまい米・売れる米を作りましょう！

区分	6月			7月			8月			9月			10月			11月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上
稲の一生と管理作業	育苗準備 箱塩種浸は 消毒水種種 毒選消毒	基肥	田植期	間断かん水		中干し	穂肥	周辺雑草除草・イネ科牧草収穫	出穂期	乳熟期			落水(収穫7日前)	刈り取り 青籾率10~15%	秋冬耕	
主な対象	◎基幹防除 ○補完防除(発生の多い時に防除)		◎いもち病・ウンカ類・コブノメイガ	○稲こうじ病(田植直後10日後) ○スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)		○ウンカ類(セジロ・トビイロ) ○コブノメイガ	○稲こうじ病(出穂20~10日前)		◎カメムシ類 (カメムシ類・トビイロウンカ) ◎紋枯病・穂いもち・コブノメイガ		○カメムシ類		うまい米を作るために 次の点に注意しましょう	種子更新・健苗育成	適期刈り取り	過乾燥の防止
病害虫と農薬		ダコレート水和剤 スミチオン乳剤 モミガードC水和剤 イチバンエースM粉剤 タイチガレン	防人箱粒剤またはスクラム箱粒剤 (スクラム箱粒剤は紋枯病に効果あり)	モンガリット粒剤 スクミノン		オーケストラフロアブル ディアナSC	Zボルドー粉剤DL		ノンブラストレバリダ粉剤DL		スタークル粉剤DL		適正な栽植密度を守りましょう！ (疎植気味の水田が多く見られます) ・1㎡当たり18株以上は植えましょう ・田植機の設定は、坪当たり60株以上、株間18cm以下で植えましょう			
量(10アール)	箱6 5 8 g	2 0 0 0 倍	箱0.5 g	箱50 g	3 4 kg	5 0 0 0 倍	3 4 kg		3 4 kg		3 4 kg		<b>病害虫の発生情報は</b> 病害虫防除所のテレホンサービス <b>099-296-6430</b> <a href="https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshu/index.html">https://www.pref.kagoshima.jp/ag13/kiad/boujoshu/index.html</a>			

除(抑)草剤 使用基準			使用回数(回以内)											
薬剤名	使用時期	10a使用量	水田一年生雑草	マツバイ	ホタルイ	キンユウスズメノヒエ	ミズガヤツリ	クログワイ	コウキヤガラ	ウリカワ	オモダカ	ヒルシロ	アオミドロ	藻類による表層はく離
クサツタ1キロ粒剤	移植時 ※田植同時散布機で施用する場合 移植直後~7/12葉期(但し、移植後30日まで)	1kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サラブレッドKAIフロアブル	移植時 ※田植同時散布機で施用する場合 移植直後~7/12葉期(但し、移植後30日まで)	500ml	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
サラブレッドKAI1キロ粒剤	移植時 ※田植同時散布機で施用する場合 移植直後~7/12葉期(但し、移植後30日まで)	1kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンペラー豆つぶ250	移植時 ※田植同時散布機で施用する場合 移植直後~7/12葉期(但し、移植後30日まで)	250g	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クラッシュEXジャンボ	移植後3~10日(7/12葉期まで)	10個(500g)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
エンペラージャンボ	移植直後~7/12葉期(但し、移植後30日まで)	10個(250g)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
バサグラン液剤	移植後15~収穫45日前まで	500~700ml 散布液量70~100ℓ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クリンチャーEW	移植後20日~7/16葉期(但し、収穫30日前まで)	100ml 散布液量25~100ℓ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
モゲトン粒剤	発生始~発生盛期(但し、収穫45日前まで) ウリカワの増殖初期(2~4葉期)またはヒルシロの発生始~増殖始(但し、収穫45日前まで)	2~3kg 3~4kg	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
グラスショート液剤(抑草剤)	雑草生育初期(草丈10cm)及び草刈り後10~20日の雑草再生期(但し、収穫前日まで)	300~500ml 通常散布液量50~100ℓ 少量散布液量25ℓ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※ ジャンボ剤と豆つぶ剤の使用にあたっては、水の出入りを止めて5~6cmの湛水状態にし、処理後少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、落水やかけ流しはやめましょう。  
※ 農薬の登録状況は、令和7年12月現在です。  
※ 農薬の使用にあたっては、容器包装に表示してある使用方法を確認して使用してください。

**<あきほなみ、あきのそら等を作付する場合>**  
ヒノヒカリと施肥・防除・水利用体系が異なりますので、品種ごとの団地化や、品種特性に応じた作業を行ってください。

## 土づくりと施肥設計(単位:10アール当たり)

収穫後、できるだけ早めに散布しましょう。  
完熟堆肥 地力維持・向上のため堆肥を施しましょう。  
①牛ふん堆肥の場合 1,000kg  
土壌改良資材  
①ケイテツ 100kg 秋落ち・倒伏防止  
②ケイカル 100kg 病害虫抵抗性増大  
③鉄入りエンリッチ40号 100kg ケイ酸・鉄・リン酸等の補給  
④アヅミン 20~40kg 腐植、保肥力向上  
⑤シリカサポート1号 40~80kg ケイ酸・鉄・リン酸等の補給  
⑥農力アップ 60~100kg ケイ酸・鉄・リン酸等の補給

※化学肥料を減らすために野菜栽培後は減肥しましょう。

ヒノヒカリ 例

肥料名	基肥	種肥	成分含有量			
			窒素	リン酸	カリ	苦土
① ヒカリエース2号(10-18-14-3)	40kg		6.0kg	7.2kg	7.6kg	1.2kg
② 水稲一発くん・普通期用(12-14-16-1)	50kg	12kg	6.0kg	7.0kg	8.0kg	0.5kg

※肥料名の( ): 窒素-リン酸-カリ-苦土の成分割合

殺菌・殺虫剤 使用基準		使用回数(回以内)										
薬剤名	使用時期等	育苗	田植	イネシガラ	紋枯病	穂こうじ病	スクミリンゴ	ツマゴロ	ウンカ類	コブノメイガ	カメムシ類	イナゴ類
タチガレンエースM粉剤	は種前、育苗箱土壌均一混和	○	○									
モミガードC水和剤	浸種前、200倍液、24時間浸漬	○	○									
スミチオン乳剤	は種前、1000倍液、6~72時間浸漬 収穫21日前まで、1000倍液	○	○	○								
ダコレート水和剤	は種時、400倍、灌漑 は種時~緑化期(但し、移植14日後まで)	○	○									
防人箱粒剤	は種時(覆土前)~移植当日			○								
スクラム箱粒剤	は種時(覆土前)~移植当日			○								
スクミノン	収穫60日前まで					○						
オーケストラフロアブル	収穫7日前まで											
モンガリット粒剤	収穫30日前まで											
Zボルドー粉剤DL	出穂10日前まで											
ディアナSC	収穫7日前まで											
ノンブラストレバリダ粉剤DL	収穫14日前まで											
トレボン粉剤DL	収穫7日前まで											
スタークル粉剤DL	収穫7日前まで											

※ スミチオン乳剤は、メーカーによって水稲に登録のないものがあります。  
※ ダコレート水和剤は、メーカーによって使用時期、使用回数異なるものがあります。  
※ 防人箱粒剤及びスクラム箱粒剤は、は種時に散布する際は必ず覆土前に散布しましょう。

※ 稲こうじ病の防除時期は、モンガリット粒剤が田植~10日後、Zボルドー粉剤DLが出穂20~10日前です。去年発生した水田には、必ず散布しましょう。

**<黄萎病・縞葉枯病の耕種的対策>**  
収穫後早期に耕して、再生イネ(ひこばえ)の発生を抑えるとともに、休耕田や畦畔等の周辺を含む冬雑草も除草しましょう。

**スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の発生ほ場では**  
① 冬場にロータリーをかけ殺菌しましょう。これは寒い時期が効果的です。  
② 卵の塊をできるだけ除去しましょう。  
③ 田植後は浅水管理にしましょう。